令和５年度九州森林管理局事業評価技術検討会　議事概要
（令和６年度新規採択事業に係る事前の評価）

１．日時　　令和６年２月１６日（金）１０：３０～１２：００
２．場所　　九州森林管理局　４階　第２会議室（一部 Web）
３．出席者　技術検討会委員　藤掛委員長、寺岡委員、黒川委員
　　九州森林管理局　森林整備部長、計画保全部長、企画調整課長補佐、治山課長
　　森林整備課長補佐、資源活用課長、専門官（災害調整担当）、
　　監査官、監査係
４．議題　　森林整備事業（森林環境保全整備事業）
　　緑川森林計画区、大分北部森林計画区、五ヶ瀬川森林計画区、南薩森林計画区
５．議事概要
　専門官（災害調整担当）より事前の事業評価（案）について、緑川森林計画区を代表事例として説明、その後に質疑応答。

（委員）
　チェックリストの、南薩森林計画区の評価指標「多面的機能を発揮する健全な森林の育成」の評価がＢとなっているが、これは事業計画区域のⅢ～Ⅻ齢級の人工林面積に占める間伐計画面積の割合が30%以下だったということか。
（九州局）
　そのとおり。南薩森林計画区の林況としては、Ｘ～Ⅻ齢級が対象面積の 60%を占め皆伐の林齢に近いことから、間伐面積が少なくなっているためである。

（委員）
　路網整備の木材生産等便益について、路網整備前後の伐採・搬出等経費を比べ、その差額で評価しているとのことだが、新設や改良をする内容によってこの数値が変わることはないのか。
（九州局）
　ここでの評価は、基本的に改良が必要な路線となっており、改良の評価をする際に、最初の段階で評価年度（評価期間）が決まり、それによって変わってくる。改良については、新設と比べると利用区域が広くなるため評価値は高くなっている。

（委員）
　豪雨災害等による被害箇所の整備も改良に含まれるのか。
（九州局）
　災害復旧事業は、森林整備事業ではないため含まれない。

（委員）
　事業対象区域のみの評価となっているが、保全効果区域の評価をしていないのはなぜか。
（九州局）

林野庁の便益評価においては、事業対象区域のみにより評価することとしているため。

（委員）
ウッドショックによる価格高騰の影響は考慮されているのか。
（九州局）
単価については１年分（R４）の価格を平均しているため、特段の考慮はしていない。

（委員）
低コスト造林の導入により造林に係る費用が削減されていると思うが、従来の造林の方法と比べて、低コスト造林による経費削減の効果は出ているのか。
（九州局）
今のところ検証までは行っていないが、機械化（UAV や ICT）の導入によって人手不足を補うことや、低コスト化に繋がっていると考えている。

（委員）
今回の総費用の計算には反映されていないということか。
（九州局）
反映されていない。過去３年間の単価の平均を算出の根拠としているため、今後反映されていくものと考える。

（委員）
国有林の事業で、低コスト造林の導入をすすめ、実際にコストが下がるという効果を実証してもらいたい。効果が実証できれば、九州内に普及していくと思うので今後も継続してもらいたい。
（九州局）
筋刈りについては、各署長等に導入の指示を行っている。現段階では、まだ導入にバラつきはあるものの、コスト削減の効果が実証されているところもある。今後、結果の取り纏めを行いお示しできるかと思う。

（委員長）
意見が出尽くしたようなので、これまでの説明を踏まえ、技術検討会による意見の取りまとめを行いたい。
事前の評価においては、「事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業の実施は妥当と判断される。」として取りまとめてよろしいか。
（委員）
異議なし。